

帯広の森の役割

『帯広の森』は、都市部への人口や産業の過度な集中が進むことによる宅地の郊外部への無秩序な拡大（スプロール化）を防ぎ、都市部と農村部を区分し、双方の交流の場としての役割を果たすことが期待されています。



帯広の森完成予想図（昭和57年発行「帯広の森造成計画」より）

また、公害の抑制や都市災害の防止、微気象・環境の緩和、生物生息環境の保全などの機能も期待されています。さらに、緑による安らぎ、余暇利用のための空間確保なども重視しており、快適な都市環境を確保することを目的としています。近年では、森の生長によりCO₂の吸収源として地球温暖化防止の役割も注目されています。

CO₂吸収

排出ガスや騒音などの公害 **抑制**

洪水や火事などの都市災害 **防止**

微気象（熱などの大気現象） **緩和**

快適な都市環境

「帯広の森」のいま



オオバナノエンレイソウ



帯広の森に関するお問い合わせは、
帯広市都市建設部みどりの課まで
 TEL：0155-65-4186（直通）
 E-mail: park@city.obihiro.hokkaido.jp

帯広の森の誕生

『帯広の森』は、面積が406.5ha、幅が約550m、延長は約11kmになります。

帯広の森の誕生は、今から50年ほど前にさかのぼります。当時の帯広市長である吉村市長は、「近代的田園都市」のまちづくりを進めており、昭和44年に訪れたオーストリアにある「ウィーンの森」に感銘を受け、帯広市にもこれをモデルとした人工の森を作ろう、と立ち上がりました。



ウィーンの森

帯広の街の南西部に森を作ること、十勝川と札内川の河畔林と連携して緑のネットワークを形成、森が街をすっぽり包み込む、そんな想いを受け「帯広の森と街を造るグリーンプラン」が昭和45年に発表されました。

その後、「帯広の森造成計画」が策定され、昭和50年6月1日に記念すべき第1回帯広の森市民植樹祭が行われました。



第1回 帯広の森市民植樹祭 第1回 帯広の森市民植樹祭（吉村、田本新日市長による記念植樹）

帯広の森構想は、開拓された畑をふるさとの森に戻すという大プロジェクト。森づくりには、計画を先導した市民運動、その後に続く植樹祭や育樹祭などたくさんの市民の方々に参加しています。そして、この森づくりのリレーは今も続いています。



帯広の森は「くーむ」 TEL 0155-66-6200 本庁 〒080-0856 帯広市南町南9線49番地1

平成22年には、帯広の森の育成管理・利活用「の拠点として『帯広の森・はくーむ』が建設されました。はくーむでは、間伐などの森づくり体験や自然観察会、クラフト体験などの行事を行うほか、帯広の森に関する様々な情報を発信しています。



帯広の森には、陸上競技場やスケートリンク、野球場などのスポーツ施設が充実しています。また、ウオーキングやパークゴルフ、冬場のクロスカントリースキーなど森の中で楽しめるスポーツもたくさんあります。

帯広の森の楽しみ方

春 4月: ツバメ、アサギ、モス、アサギ、アサギ、アサギ

夏 7月: アサギ、アサギ、アサギ、アサギ

秋 10月: アサギ、アサギ、アサギ、アサギ

冬 1月: アサギ、アサギ、アサギ、アサギ

帯広の森生き物ごよみ

① 苗作り: どのくらいの種まきは終了し今後はおひろろが育樹祭で苗をまき、苗が草で覆われていなくなると草刈りを行います。1年は3回行います。

② 植樹: 5月中旬～6月上旬頃、乾いた土壌にはカシワやミズナなど、湿った土壌にはヒノキやサトウキビなど、土壌条件に適した樹種を植樹します。

③ 間伐: 生育の悪い木、混みすぎている木を間引き、残った木の生育を促します。また、林内に光を入らせて次世代の苗木や草花の生育を良くします。

④ おひろろが育樹祭: 帯広の森では、植樹した木々が親木となり、今では森の中に多くの実生苗が育つようになっています。しかし、その多くは日照不足や競争に負けていなくなっています。一部は木を掘り上げ、苗畑へ移植し、3年後に苗を植樹することができます。

⑤ 下草刈: 苗木が草で覆われていなくなると草刈りを行います。苗が草で覆われていなくなると草刈りを行います。1年は3回行います。

⑥ 植樹風景: 苗木が草で覆われていなくなると草刈りを行います。苗が草で覆われていなくなると草刈りを行います。1年は3回行います。

⑦ 間伐風景: 生育の悪い木、混みすぎている木を間引き、残った木の生育を促します。また、林内に光を入らせて次世代の苗木や草花の生育を良くします。

帯広の森づくり

帯広の森の今

帯広の街も、開拓前はカシワやハルニレなどのうっそうとした原生林に覆われていました。しかし、その後の開墾や都市化によって、豊かだった緑は消えてしまいました。帯広の森は、帯広の街がもう一度緑を取り戻し、自然との調和をはかるための「マチづくり戦略」のひとつです。



帯広の森の設計図である「帯広の森造成計画」では、帯広の森をどんな木々で育てていけば良いかを決めています。その後森の利活用と今後の方向性を決めるために、「帯広の森利活用計画」が作られました。

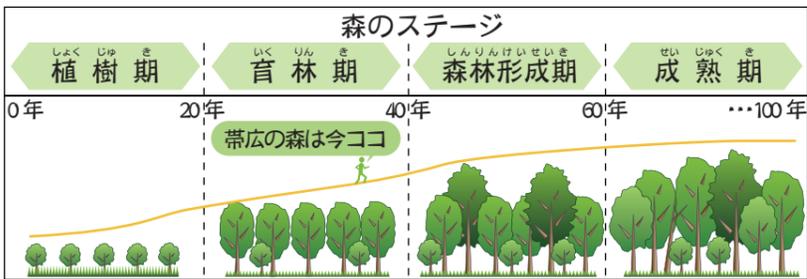
■ 帯広の森造成計画 ■

- * 森のはたす役割をはっきりさせた
- * 計画地域の現状と特徴を調査した
- * 立地条件などから植樹樹種を決定した
- * ふるさとの森のづくりを目指した
- * 樹種はできる限り郷土種とした
- * 森全体を8つのブロックに分けた
- * ブロックごとに整備の方針を決めた

■ 帯広の森利活用計画 ■

- * 植樹開始から20年後の森の姿を調査した
- * 森の問題点を整理し今後の方針を決めた
- * 防災管理計画を合わせ森の配置を計画した
- * 森の育成と利用の進め方を森のステージごとに示した
- * 施設計画では活用の拠点づくりを示した
- * 森を知ってもらうための方法を示した

帯広の森では、第1回市民植樹祭から30年をかけて約23万本の樹木が植えられました。長い時間をかけて育ててきた森は、最も古い場所で植樹後37年をむかえ、新たなステージへ移ろうとしています。



帯広の森の生きものたち

帯広の森では、森づくりに役立つため、構想段階からたくさんの調査が行われています。

■ 帯広の森で確認された生きもの ■

- * 哺乳類：6科13種
- * 鳥類：28科75種
- * 両生類：2科3種
- * 甲殻類：1科1種
- * 底生生物：30科44種
- * 植物：82科441種



■ 貴重な生きもの ■

帯広の森には、水辺や草地、森林など様々な環境があるためたくさんの生きものが生息・生育しています。ニホンザリガニやエゾサンショウウオも、市内では珍しい貴重な生きものです。



■ 外来種と在来種 ■

外来種とは、もともとその地域には住んでいなかったのに人間活動によって他の地域から入ってきた生きものことです。外来種は、もともといた生物(在来種)を追い出したり、食べたりするなど、生態系に悪い影響を与えます。帯広の森では、オオアワダチソウなどの外来種が生育することで在来種が生育できず、自然の姿に近づこうとしている森の動きを妨げています。どうすればこれら外来種の侵入・分布拡大を防げるか、みんなで考えていく必要があります。



生物多様性ってなに？

生物多様性とは、「すべての生物間にある違い」をさします。この違いについて、もう少し詳しく表現したのが、種の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性です。地球上の生きものは、それぞれに個性を持ち、それらが森から海まで生活し、食う・食われる、花粉を運ぶといったさまざまな関係でつながっています。これら生物多様性にとって、壊して良い関係、いなくなっている種はひとつもなく、いずれも大切に守っていく必要があります。

■ 種の多様性 ■

地球上には、たくさんの生きもの「種」が暮らしており、存在が知られている種だけでも150万種といわれています。これは長い時をかけて、遠い祖先の生きものから少しずつ枝分かれしてきた結果なのです。



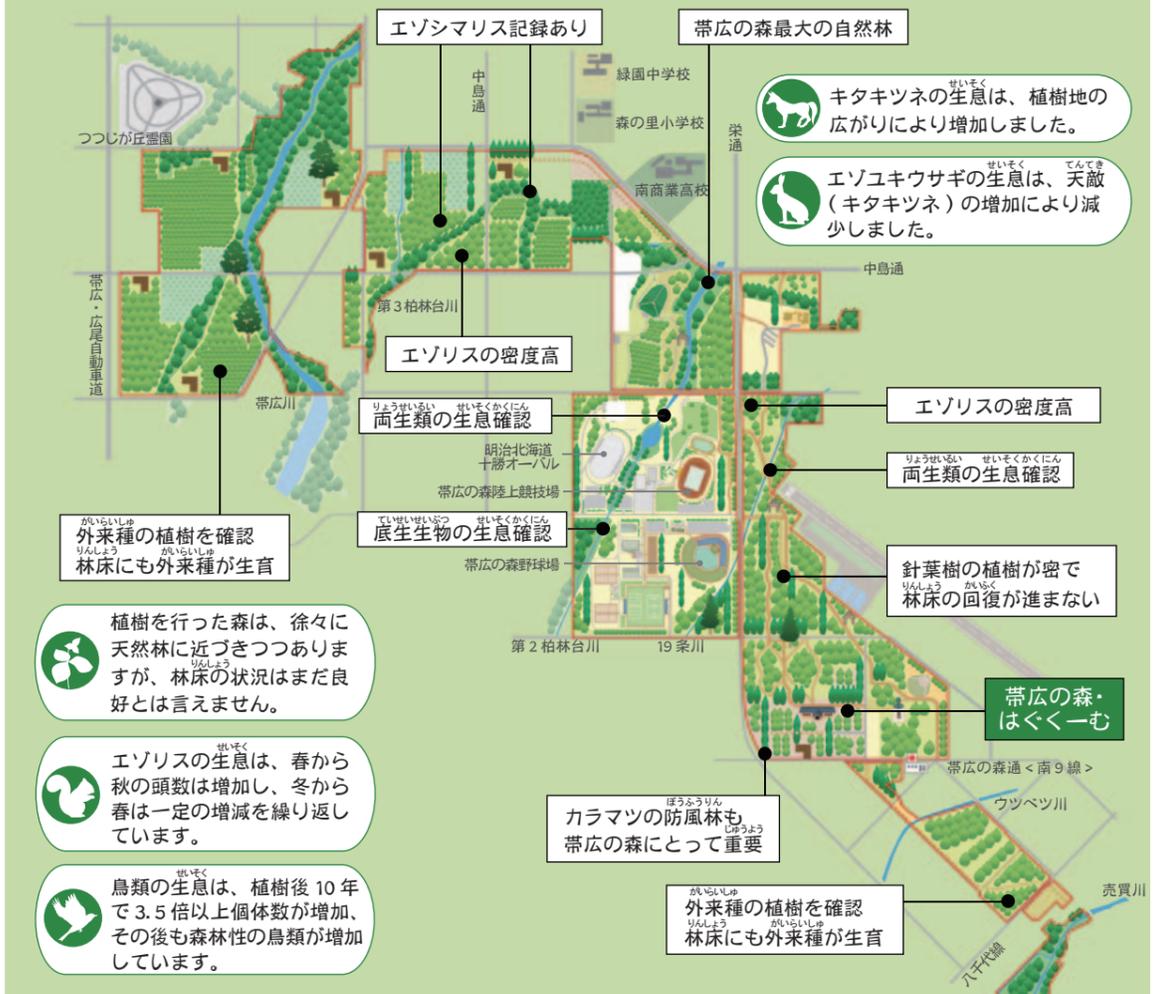
■ 遺伝子の多様性 ■

同じ「種」の中にも、違いがあります。これは、私たちの顔がそれぞれ違うのと同じで、個々の生きものが持つ個性であったり、蛍の光り方の違いであったり、生きもの集まりがもつ違いであったりします。

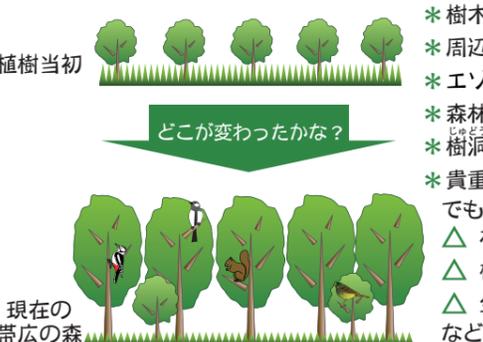


■ 生態系の多様性 ■

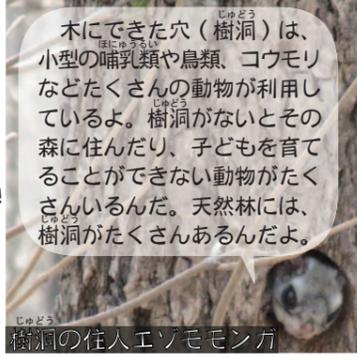
生きものは、高山や森林、海などいろいろな場所に住んでいます。そしてその環境にいる生きものは、食う・食われるや、利用する・される、といった関わり合いによって「生態系」というつながりを作っています。



植樹から30年以上経過した森ではいろいろな良い変化がみられました。でも、まだまだ天然林にはおよばない部分があります。



でも...
△ 林床などに外来種が生育
△ 樹洞のある木や枯死木が少ない
△ 生きもの多様性がまだまだ低いなどの、問題もあります。



帯広の森のこれから...

帯広の森には、いくつかの「なやみ」があります。

■ 帯広の森のなやみ ■

- ① 帯広の森造成計画や利活用計画で目指した森の姿と実際作られた今ある帯広の森が少し違う場所がある。
 - ② 帯広の森の天然林を、どのように育て守っていくか、まだ決まっていない→天然林は、多くの生きものにとって貴重なすみかであり、適切に守っていく必要があります。
 - ③ 森と森の連続性(つながり)が保たれていない→連続性がないと、住めなくなる生きものや、移動中に交通事故にあう動物が増える危険性があります。
 - ④ その土地に適した樹木が植樹されていない→湿った場所や乾いた場所には、それぞれ異なる植物が生育します。
 - ⑤ 外来種が植樹されたり林床にも侵入している→外来種の生育は、在来種の生育や生態系に悪影響を与えます。
 - ⑥ 十分な間伐が追いつかず、林床が暗くなっている→林床が暗いと、植物が生育できず、動物にも住みづらい環境になります。
- 帯広の森では、これらのなやみを解消し、もともと帯広に広がっていた「郷土の森」に近づくとともに、間伐などの適切な育林活動を続けていきます。

■ 帯広の森のルール ■

- 帯広の森は、市民の皆さんと一緒に作り、育てていく大切な森です。誰もが気持ち良く利用できるように、ルールを守りましょう。
- ゴミは投げ捨てず、必ず持ち帰りましょう。
 - たき火やタバコのポイ捨ては、火災の原因になりますので、絶対にやめましょう。
 - 動植物を捕獲・採取したり、樹木を無断で伐採することはできません。
 - 他の土地の樹木を植えたり、動植物を持ち込んではいけません。
 - ベンチやトイレなどの施設は大切に使いましょう。
 - 決められた場所以外に、許可無く車を乗り入れることはできません。
 - 森の利用は自由ですが、自然を大切に、他の利用者の迷惑になることはやめましょう。

*掲載内容は、平成24年2月現在の状況です。